

TOTO

スリムタイプC(埋込なし)

製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

安全に関するご注意

お取り付け、ご使用前にこの「安全に関するご注意」をよくお読みの上、正しくお取り付け、お使いください。
この説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味はつぎのようになっています。



警告

誤った取り扱いをすると、「死亡又は重傷を負う可能性が想定される」内容です。



注意

誤った取り扱いをすると、「人が傷害を負う可能性及び物的損害の発生が想定される」内容です。



してはいけない「禁止」の内容です。






必ず実行していただく「強制」の内容です。

 警告	 水場使用禁止	<p>浴室など水がかかったり湿気の多い場所には設置しない 製品本体・ねじ類の腐食により、落下してけがやときに死亡の原因となります。</p>	 分解禁止	<p>修理技術者以外の人には絶対に分解したり、修理・改造は行わない(自動水栓・電気温水器) 火災や感電の原因となります。</p>
	 禁止	<p>屋外および傾斜のあるような壁面、振動の激しい場所には取り付けない 取り付けが不安定になり、落下してけがやときに死亡の原因となります。</p>	<p>コードを乱暴に扱ったり、ガタついているコンセントは使わない(自動水栓・電気温水器) 火災や感電の原因となります。</p>	
		<p>水道水および飲用可能な井戸水(地下水)以外は使用しない 皮膚の炎症などを起こす原因となります。</p>	<p>交流100V以外では使用しない(自動水栓・電気温水器) 火災の原因となります。</p>	
		<p>器具取り付け用のねじ固定部の壁裏には、配管・配線をしてはいけない 火災や感電の原因となります。 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。</p>	<p>給水位置や露出された排水管の真下部に電源コンセントを設置しない(自動水栓・電気温水器) 結露水などにより、電源コンセントに水がかかり、火災や感電の原因となります。</p>	
	 必ず守る	<p>電源プラグやコードが傷んだりコンセントの差し込みがゆるいままで使用しない(自動水栓・電気温水器) 火災や感電の原因となります。</p>	 アース接地	<p>アース(D種接地)工事を行う(自動水栓・電気温水器) 火災や感電の原因となります。</p>
<p>製品の取り付け位置には壁裏に補強する 取り付け物の転倒、落下によりけがの原因となります。</p>		<p>柱・間柱は腐食などで強度不足でないことを確認する 取り付け物の転倒、落下によりけがやときに死亡の原因となります。</p>		
		<p>取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ(現場手配)を使用する 取り付けが不安定になり、落下によりけがやときに死亡の原因となります。</p>	<p>機器の設置は専門業者が行う また、電気工事は関連する法令・法規に従って有資格者(電気工事士)が行う 火災や感電・水漏れし家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。</p>	

UGX1001X



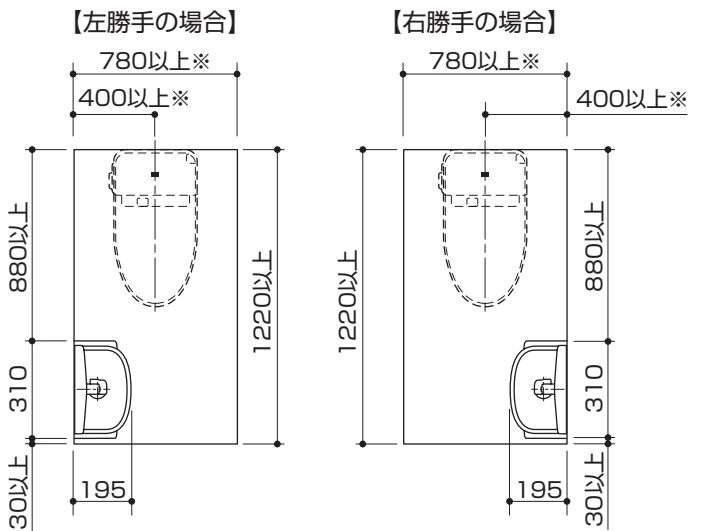
<div style="text-align: center;">  注意 </div>	 禁止	<p>製品に強い力や衝撃を与えない 製品が破損し、故障の原因となります。</p>	<p>止水栓を開けたままで給水フィルターをはずさない 水が噴き出し、家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。</p>	
	 必ず守る	<p>キャビネットは壁への固定が完了するまで、十分注意する 倒れやすく、けがの原因となります。</p>	<p>工事完了後、手洗器・カウンター・キャビネットの固定にガタつき・扉の傾き・丁番のゆるみがないか確認する 倒れやすく、けがの原因となります。</p>	
		<p>設置工事に使用する部材は必ず付属部品および指定部品を使用する 取り付けが不安定になり、使用中に落下してけがの原因となります。</p>	<p>給水フィルター・給水フィルター付水抜栓を取り付けるときは確実に締める 水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。</p>	
		<p>工事完了後、給排水管などから水漏れがないか確認する 水漏れすると家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。</p>	<p>凍結のおそれがある地域では、凍結防止工事を行う 凍結すると器具の一部が破損し水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。</p>	

1 取り付け前のご注意

1. 取り付けに必要なトイレスペースを確保するとともに、ドア枠などの干渉により扉が開かなくなる場合がありますので、「設置寸法について」を参考に設置してください。
2. 施工前に給水取出位置・排水管位置およびコンセント位置が所定の位置であることを確認してください。
3. キャビネットの表面にテープ・シール等を貼らないでください。

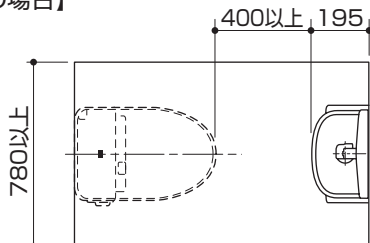
1 設置寸法について

手洗器単体タイプ

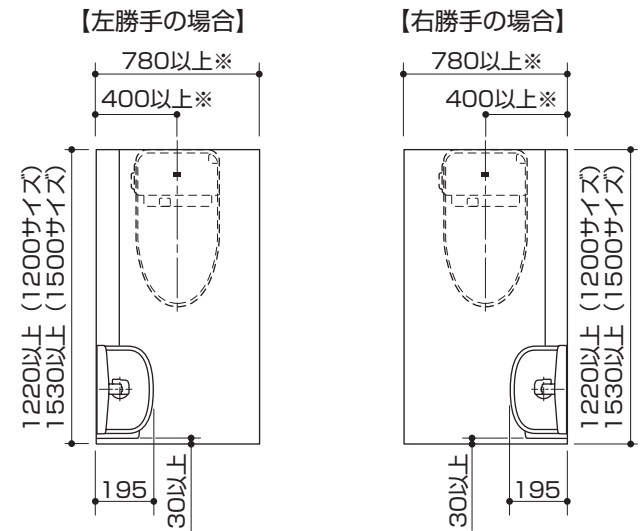


※ネオレストAH・RH・Dとセットする場合、750以上、375以上から設置可能です。

【対面設置の場合】

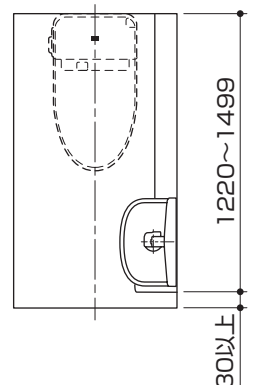


カウンター(1200/1500)サイズ



※ネオレストAH・RH・Dとセットする場合、750以上、375以上から設置可能です。

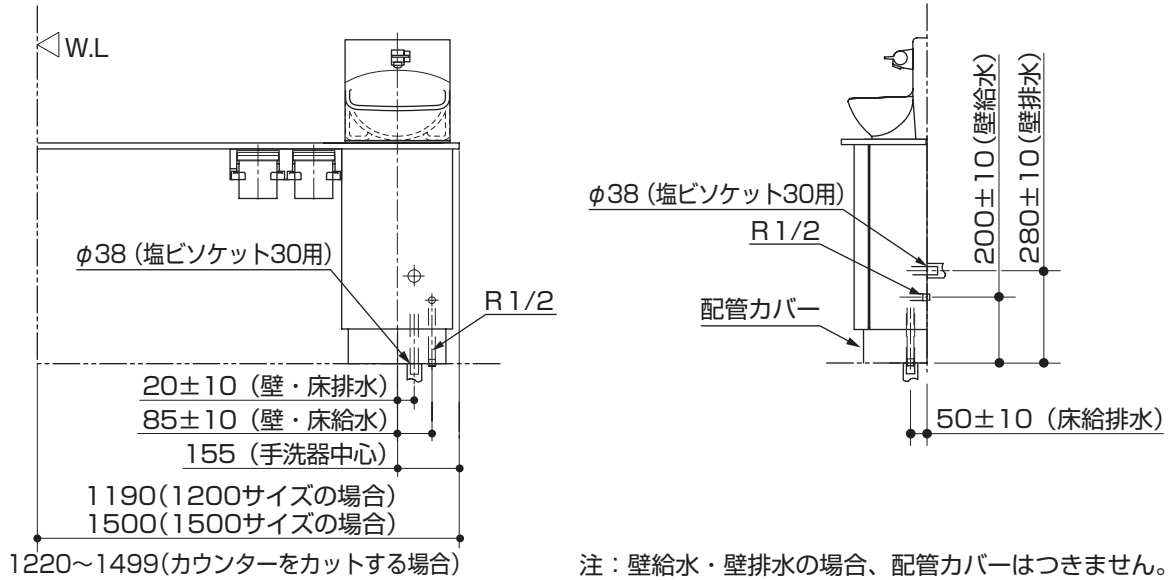
1500サイズのカウンターは、トイレ奥行に合わせてカットすることができます。カットする際は、周辺機器の取り付けを十分確認してください。



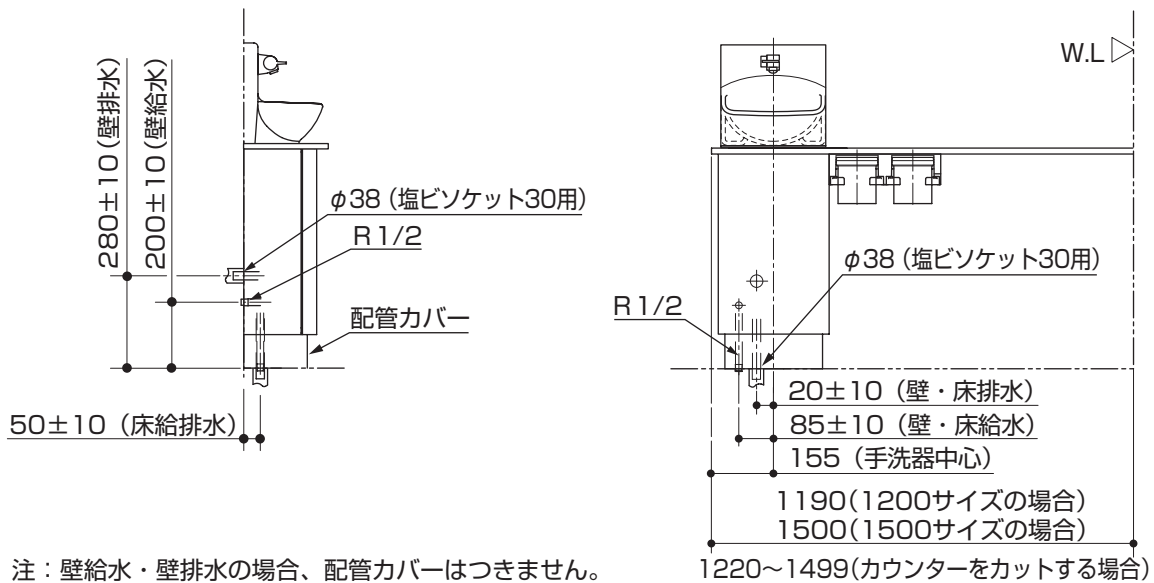
2 給排水取出位置について

- ・設備側給水管の立ち上げは、壁・床仕上げ面と同一面にしてください。
- ・カウンターをカットする場合は、カウンター長さに合わせて給排水の取り出しを行ってください。
- ・給水圧力範囲は、最低必要水圧:0.05MPa(流動時)、最高水圧:0.75MPa(静止時)です。この圧力範囲であることをご確認ください。

右勝手

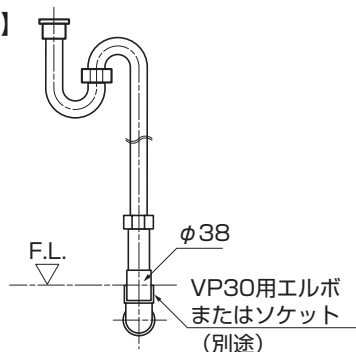


左勝手

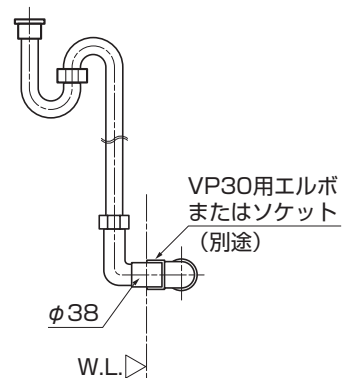


排水管立ち上げ詳細<設備工事(別途)>

【床排水の場合】



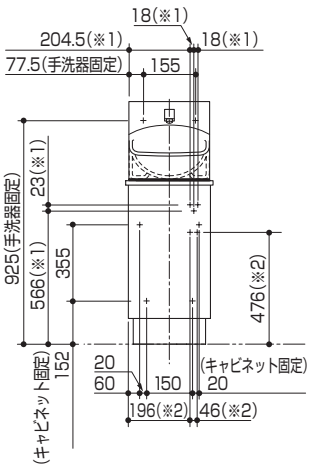
【壁排水の場合】



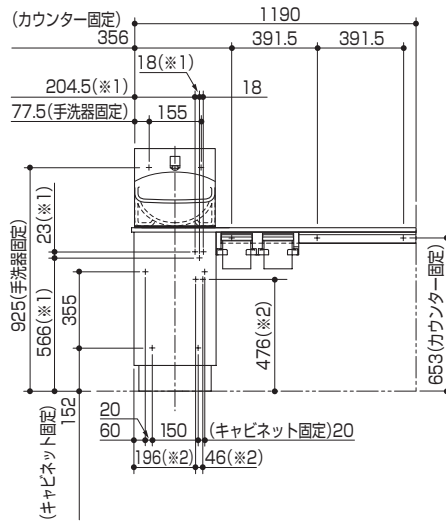
3 補強材について

固定ねじ位置

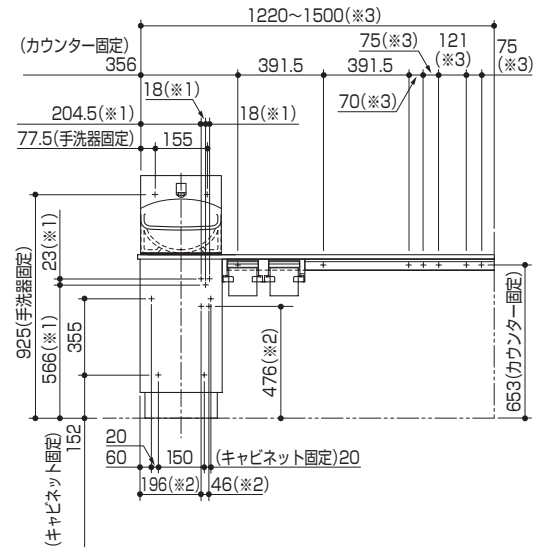
【手洗器単体タイプ】



【1200カウンタータイプ】



【1500カウンターフリーカットタイプ】



- ※1 自動水栓(電気温水器付を含む)の場合
- ※2 自動水栓(電気温水器付)の場合

- ※1 自動水栓(電気温水器付を含む)の場合
- ※2 自動水栓(電気温水器付)の場合

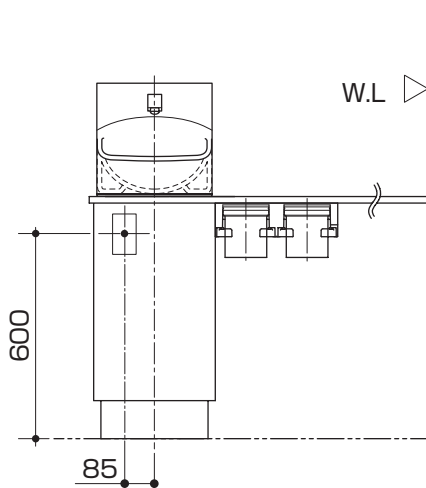
- ※1 自動水栓(電気温水器付を含む)の場合
- ※2 自動水栓(電気温水器付)の場合
- ※3 カウンターをカットする場合は寸法が変わります。

- ・あらかじめ壁固定位置に補強材(幅90mm×厚さ30mm耐加重1961N/m(200kgf/m))または、厚さ12mm以上の補強合板(JAS規格相当品)を壁全体に入れておいてください。(建築工事)
- ・タイル、コンクリート壁の場合は、壁固定位置に下穴をあけ、コンクリート用プラグ(現場手配)を打ち込んでおいてください。

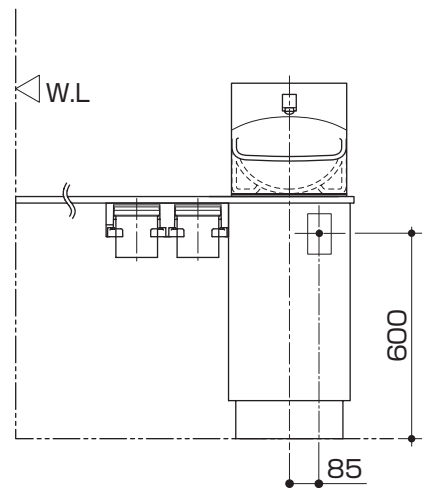
4 電気配線について

- ・自動水栓・電気温水器付自動水栓をセットされる場合、あらかじめ下図の位置に壁埋込式コンセント(電気温水器付自動水栓の場合は接地用端子の付いた接地極付きの壁埋込式2口コンセント)を設置してください。
- ・定格消費電力:自動水栓(常時0.4W(作動時0.6W))、電気温水器(505W)
- ・コンセントは付属品として同梱されておりませんので、現場にて手配してください。

左勝手

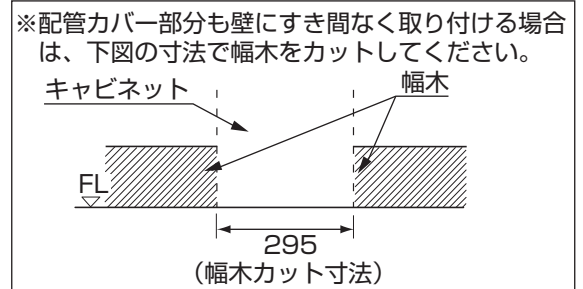
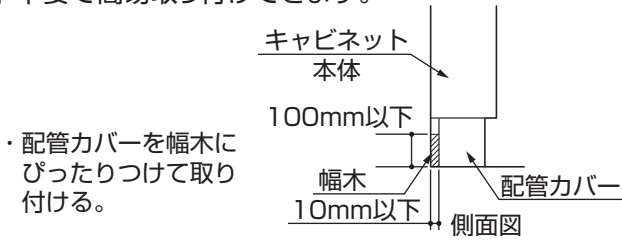


右勝手



5 幅木について

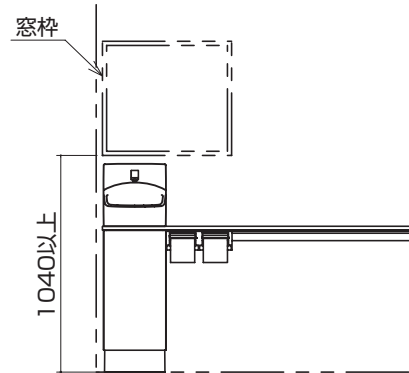
本商品ではキャビネット本体と配管カバー部分が別体になっており、幅木の厚み分配管カバーを前にずらすことにより幅木カット不要で簡易取り付けできます。



※すき間が目立つ場合は、上図のように幅木をカットすることをおすすめします。

6 窓枠について

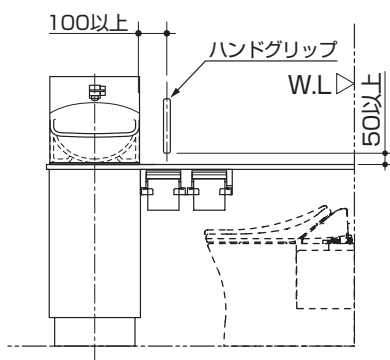
窓がある場合、下図のような制約が付きます。事前に製品と干渉しないように注意してください。



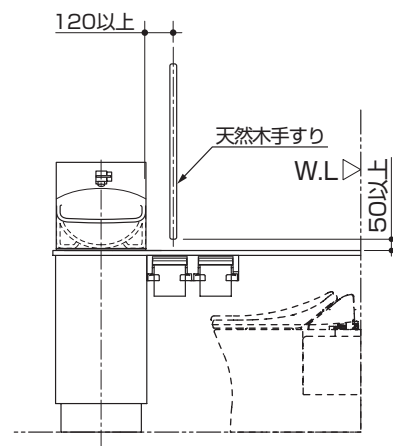
7 ハンドグリップ、天然木手すり取り付け位置について

- ①設置の際は、下図の有効寸法をお守りください。
- ②便器の前出寸法は機種によって異なりますので、使用者が特定できる場合はその使いやすさに合わせて取付位置を決定ください。

1200カウンターサイズ



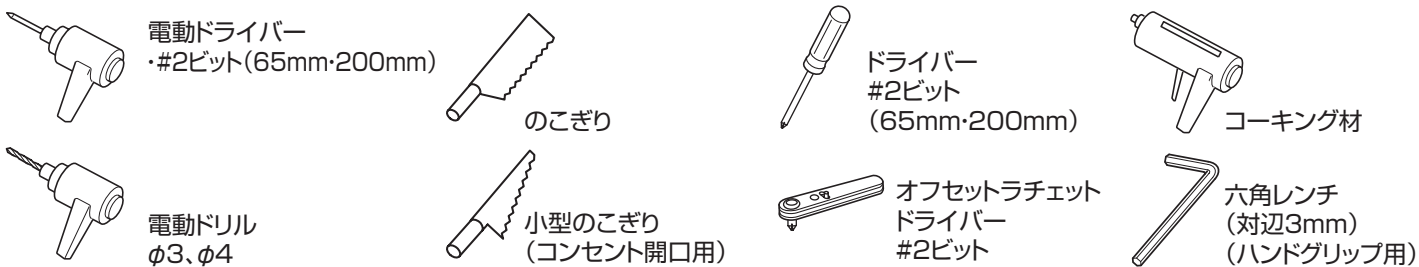
1500カウンターサイズ



2 部品の確認

必要工具

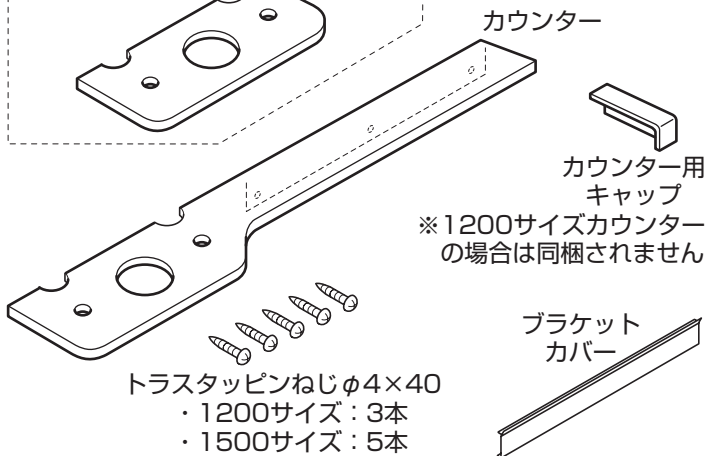
※一般水道工事に使う工具以外に、下記の工具を用意してください。



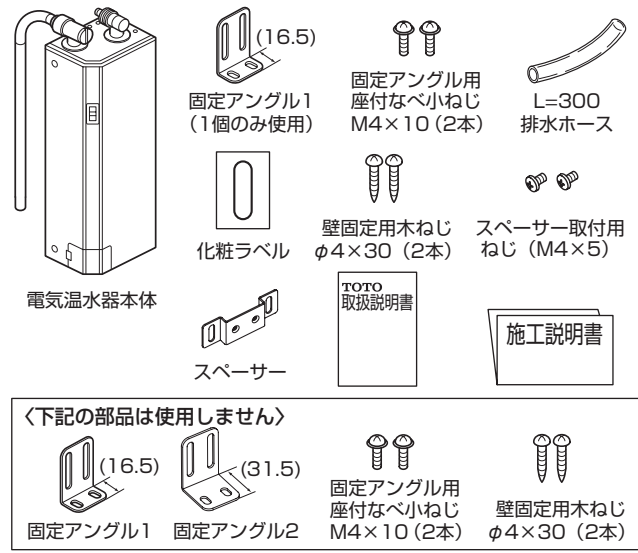
<p>手洗器部</p> <p>手洗器</p>	<p>手洗器キャビネット部</p>	
<p>TOTO 施工説明書</p> <p>TOTO 取扱説明書</p> <p>施工説明書 取扱説明書 (本書)</p>	<p>手洗器キャビネット</p> <p>底板</p> <p>配管カバー ※壁給水・壁排水の 場合は配管カバー はありません。</p>	<p>排水金具</p> <p>三角 パッキン</p> <p>スリップ ワッシャー</p> <p>接続管</p> <p>手洗器固定金具 (2個)</p> <p>手洗器固定ねじ (蝶ボルト) M6×50 (2本)</p> <p>ワッシャー (2個)</p> <p>化粧キャップ (4個)</p> <p>手洗器 固定金具</p> <p>型紙</p>
<p>紙巻器</p> <p>紙巻器 (カウンタータイプ の場合のみ)</p>	<p>石けん受け</p> <p>石けん受け (埋込なし手洗器)</p>	<p>取扱説明書 施工説明書</p> <p>棚付二連紙巻器 (単体タイプの場合のみ)</p> <p>取扱説明書 施工説明書</p> <p>石けん受け (壁付)</p> <p>天然木手すり本体 (天然木手すり付の場合のみ) ※製品により形状が 若干異なります。</p>
<p>ペフ</p> <p>給水用 排水用</p>	<p>止水栓</p> <p>ハンドル式水栓 壁給水 床給水</p> <p>開閉工具</p>	<p>タオル掛け本体</p> <p>皿タッピンねじ φ4×16 (4本)</p> <p>I型キャップ</p>
<p>自動水栓の場合のみ</p> <p>コントローラー コントローラー 固定材</p>	<p>自動水栓</p> <p>壁給水 床給水</p> <p>開閉工具</p>	<p>排水金具</p> <p>クイック ファスナー</p> <p>排水管</p> <p>φ4.5×40 トラスタッピンねじ×4</p>
<p>ホースクランプ</p> <p>自動水栓機能部</p> <p>φ4×30 トラスタッピンねじ×3</p>	<p>ハンド グリップ</p> <p>ハンド グリップ本体 (ハンドグリップ 付の場合のみ)</p> <p>ブラケットカバー</p> <p>木製キャップ</p> <p>取扱説明書 施工説明書</p>	<p>φ4.5×40 トラスタッピンねじ×4</p> <p>φ4×16 六角穴付タッピンねじ×1</p>

カウンター部

※単体タイプの場合、カウンターはキャビネット部の包装箱に入っています。



電気温水器(電気温水器付の場合)

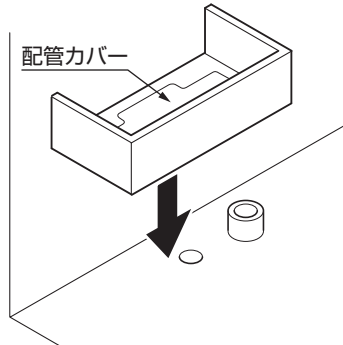
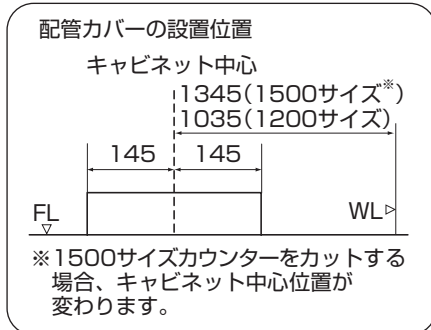


3 部材の取り付け

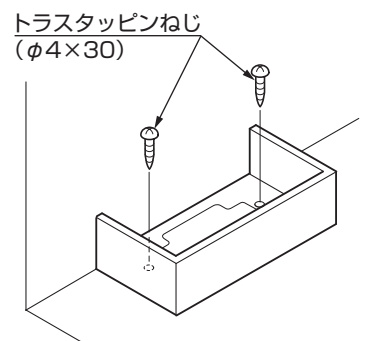
※この施工説明書では左勝手を説明しています。

1 配管カバーを取り付ける (床給水/床排水の場合のみ)

① 配管カバーを設置場所に仮置きし、床に下穴(φ3)をあける。



② 同梱のねじ(キャビネット固定用ねじセット)で固定する。

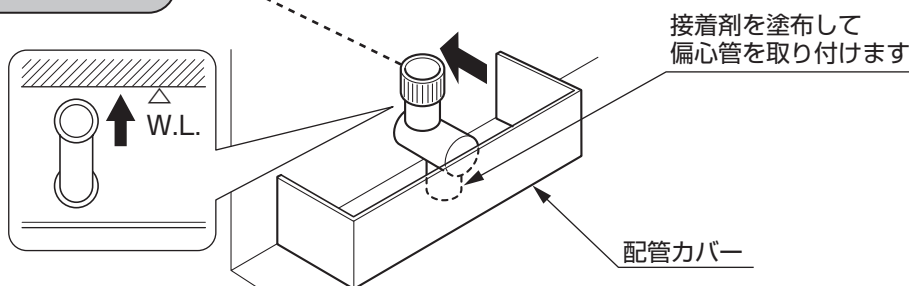


2 偏心管を取り付ける (床排水の場合のみ)

現場の排水位置に合わせて設備側排水管と偏心管末端に接着剤を塗布して偏心管を取り付ける。

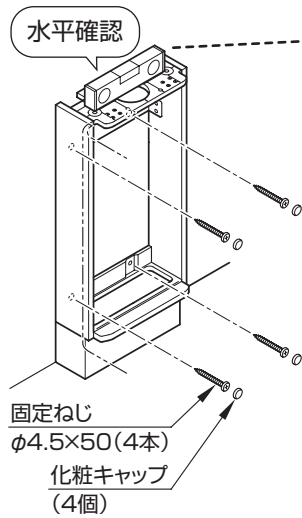
ポイント

排水管差し込み口が奥向きになるように取り付ける。



3 キャビネットの固定

配管カバーありの場合(床給水/床排水の場合)

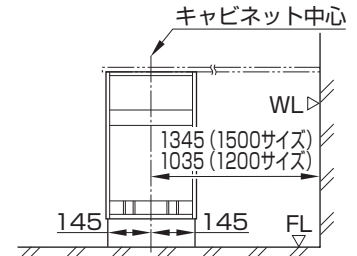


① キャビネットを配管カバーに仮置きし、水平を確認する。

② 壁に取り付け穴位置をけがき、下穴(φ4)をあける。

③ 同梱のねじで固定し、化粧キャップを取り付ける。

キャビネットの設置位置

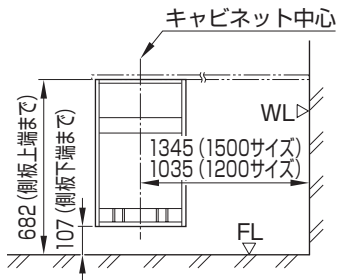


※1500サイズカウンターをカットする場合、キャビネット中心位置が変わります。

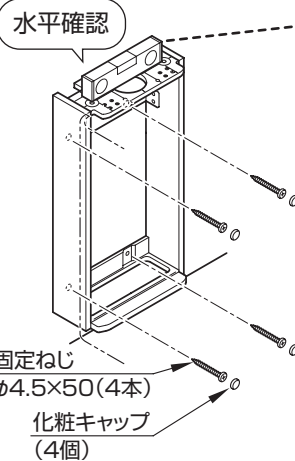
配管カバーなしの場合(壁給水/壁排水の場合)

① 下図を参照し、壁に取り付け位置をけがく。

キャビネットの設置位置



※1500サイズカウンターをカットする場合、キャビネット中心位置が変わります。



② キャビネットを壁に押し当て、水平を確認する。

③ 壁に取り付け穴位置をけがき、下穴(φ4)をあける。

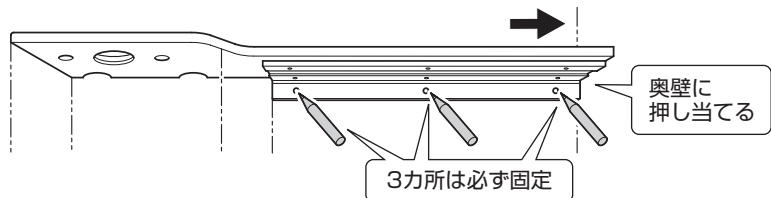
④ 同梱のねじで固定し、化粧キャップを取り付ける。

4 カウンターの取り付け

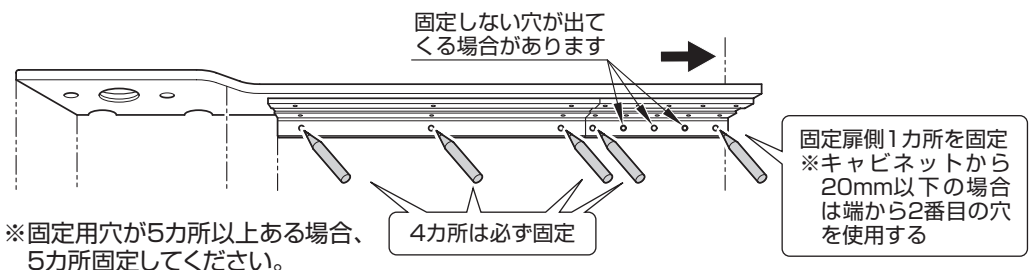
① キャビネット上部のダボをカウンター裏面の穴に差し込む。

② カウンターの水平を確認し、壁に取り付け位置をけがく。

1200サイズカウンターの場合



1500サイズカウンターの場合



4 カウンターの取り付け（つづき）

1500サイズカウンターをカットする場合

- ① カウンター本体・ブラケットカバーを【A-2mm】でカットする。
 (A：奥壁からカウンター先端までの長さ)
 ※Aは1220～1500mmの範囲となります。1220mm以下
 になりますと、キャップの取り付けができません。

注意



必ず守る

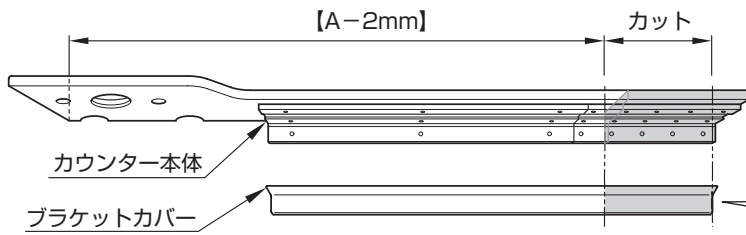
カットした面は滑らかに
仕上げる

お客様の手が触れ、けがを
するおそれがあります。

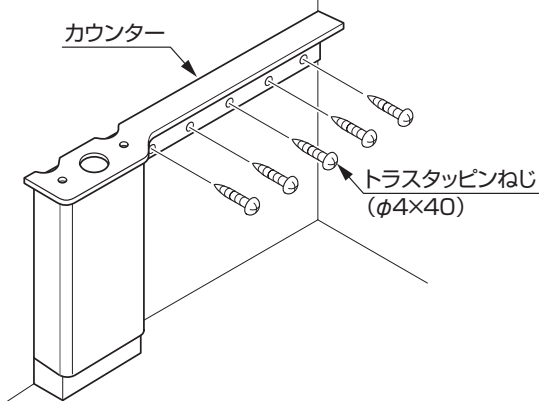
- ② カウンターのカット面に
カウンターキャップを
はめる



ブラケットカバーの向き

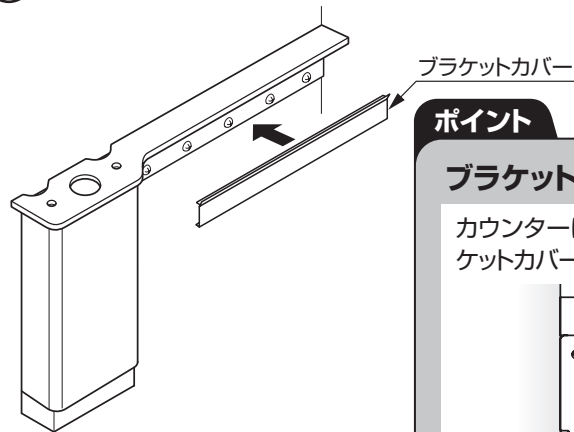


- ③ けがいた箇所の下穴（φ3）を開け、
同梱のねじで固定する。



※図は1500サイズの場合

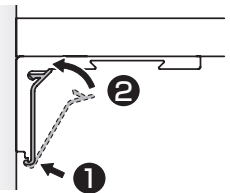
- ④ ブラケットカバーを取り付ける。



ポイント

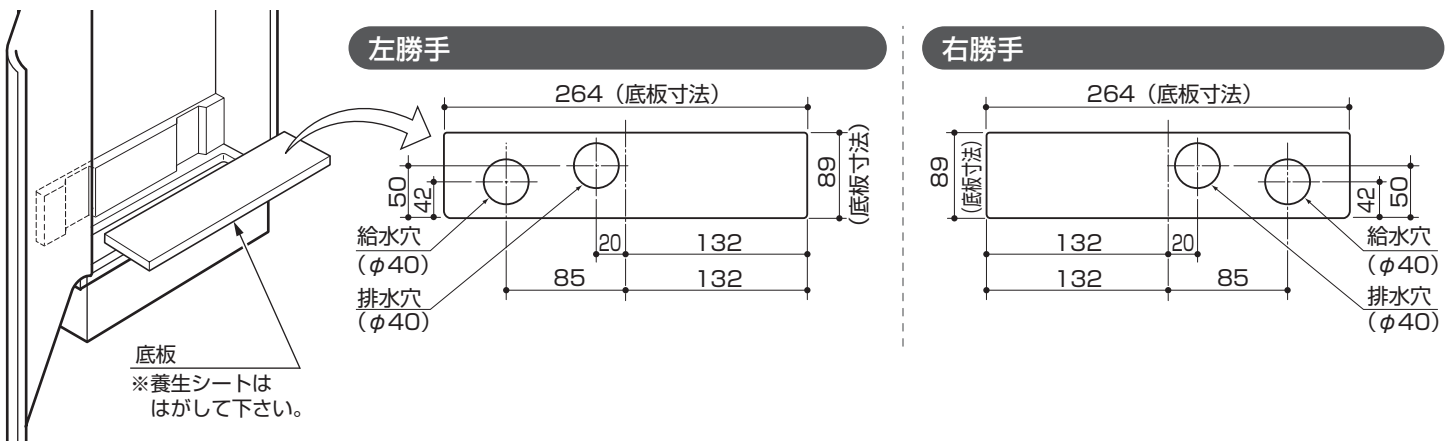
ブラケットカバーをはめ込む

カウンターに引っ掛けるようにブラ
ケットカバーをセットする



5 底板の給水・排水穴あけ

現場の給排水位置に合わせて、底板を右図の寸法にて穴あけする。(底板は着脱式です。穴あけは自由キリを使うと便利です。)



6 手洗器の取り付け

1 排水金具本体を取り付ける

① 排水金具のねじ部にシリコーン系シーラントを塗布する

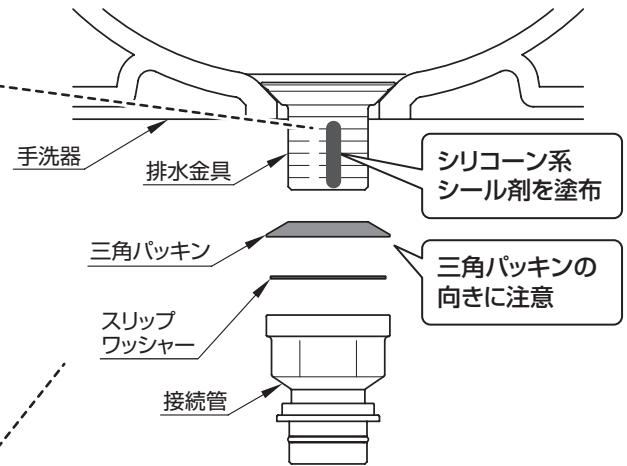
注意

排水金具ねじ部には、必ずシリコーン系シーラントを塗布する
必ず実行 水漏れして、家財などをめらす財産損害発生の原因となります。

② 三角パッキン、スリップワッシャーをはめて、接続管を締める

ポイント

接続管は手締めした後、工具で軽く締め付ける
締めすぎると手洗器が割れるおそれがあります。

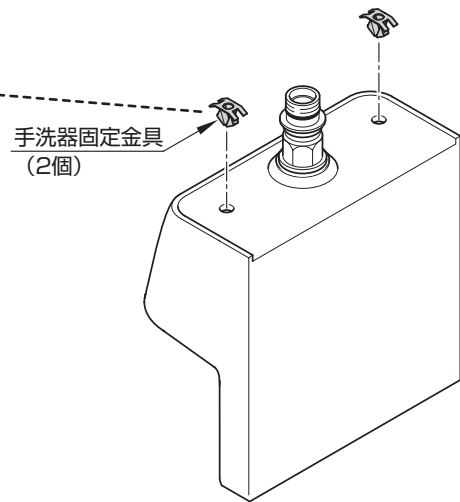
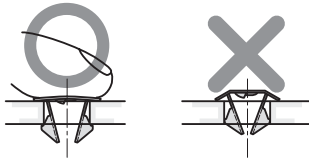


③ 手洗器裏面の穴に手洗器固定金具を2個取り付ける

ポイント

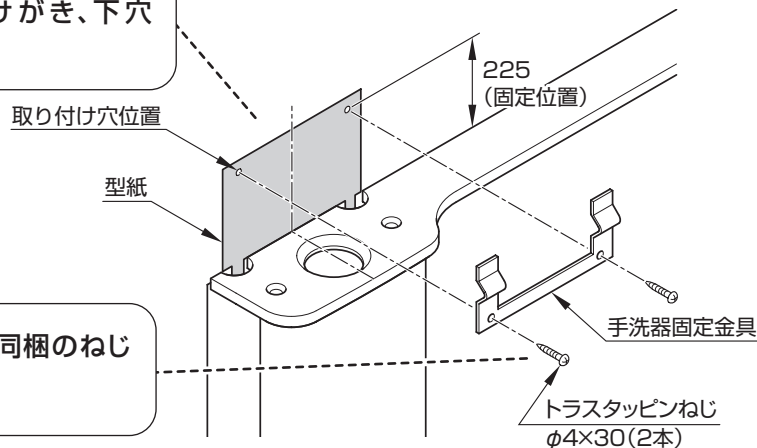
手洗器固定金具は手洗器を平らなところに置き、陶器とのすき間がなくなるまで、しっかり押し込む

押し込みが足りないと、取り付けボルトが途中までしか入らず、手洗器が固定できません。



2 手洗器を取り付ける

① 型紙で、手洗器固定金具(上部)取り付け位置をけがき、下穴(φ3)を開ける



② 手洗器固定金具を同梱のねじで壁に固定する

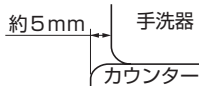
6 手洗器の取り付け (つづき)

2 手洗器を取り付ける(つづき)

- ③ 手洗器を手洗器固定金具に差し込む

ポイント

手洗器を図のように合わせる

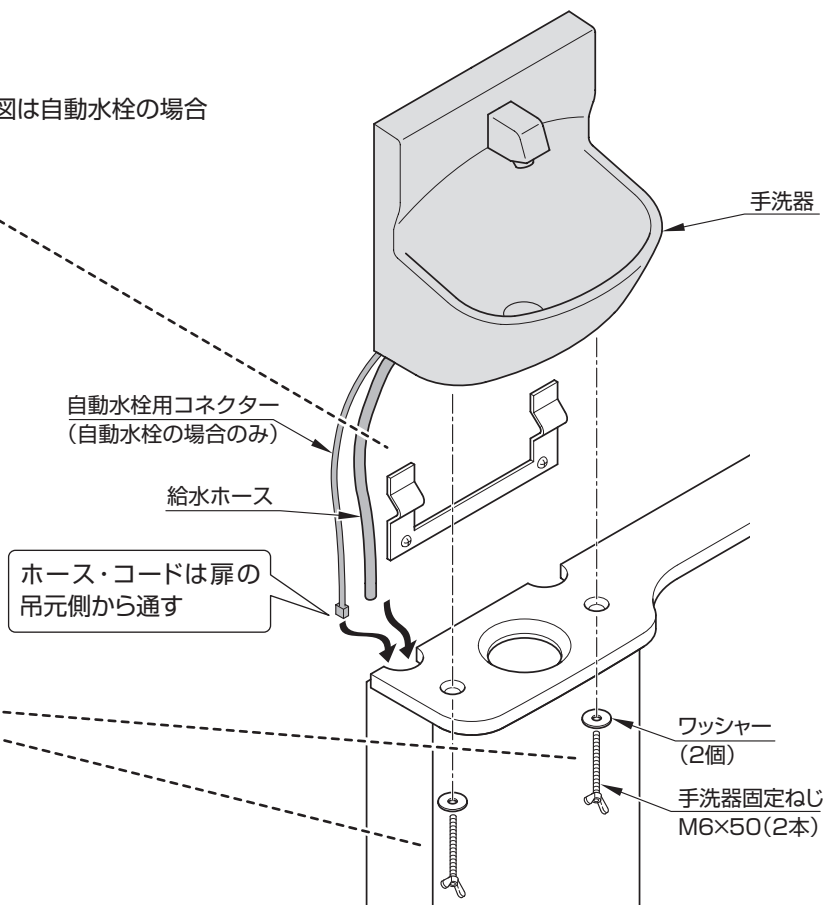


- ④ 手洗器キャビネットの下から手洗器固定ねじM6×50(2本)とワッシャー(2個)で固定する

ポイント

手締めすること

※図は自動水栓の場合



7 止水栓の取り付け

壁給水

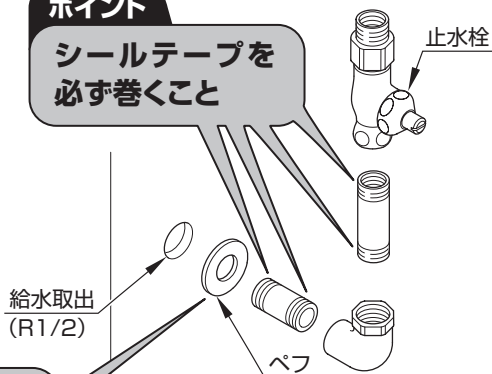
ポイント

シールテープを必ず巻くこと

給水取出
(R1/2)

ポイント

忘れないこと



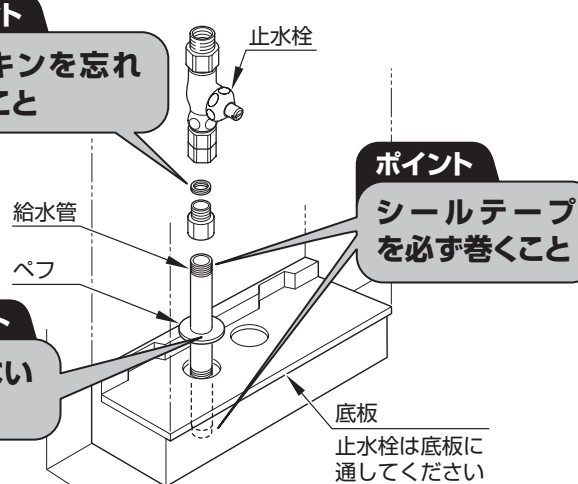
床給水

ポイント

パッキンを忘れないこと

ポイント

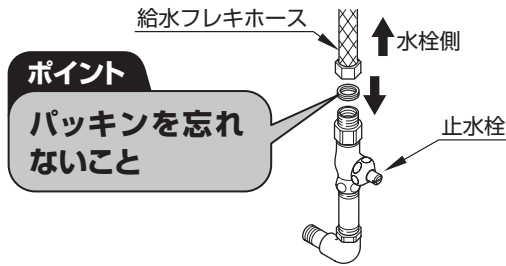
忘れないこと



8 給水管の接続

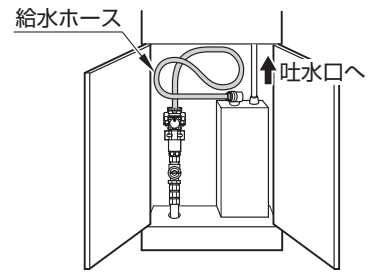
ハンドル式水栓の場合

① 給水フレキホースを接続する。



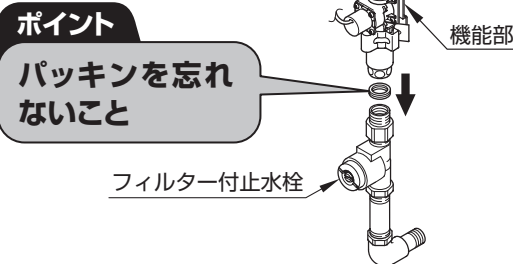
電気温水器付の場合

参照 ※詳しくは、電気温水器の施工説明書を参照ください。
※給水ホースの取り回しは、下図を参照ください。



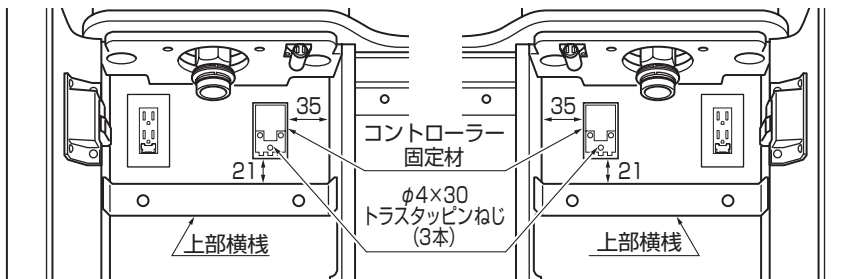
自動水栓の場合

1 機能部を取り付ける

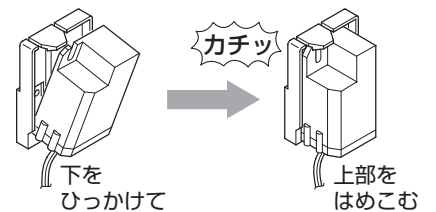


2 コントローラーを取り付ける

① コントローラー固定材を下図の位置に取り付ける。
【左勝手】 【右勝手】

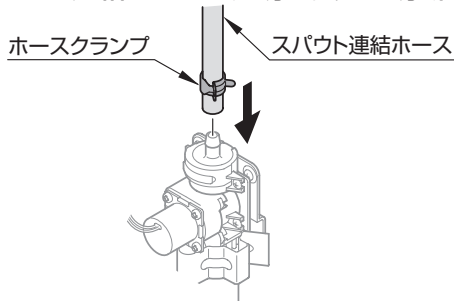


② コントローラーをコントローラー固定材にはめ込む。



3 スパウト連結ホースの接続

① スパウト連結ホースを適切な長さに切断し、接続する。

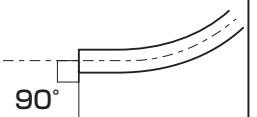


注意



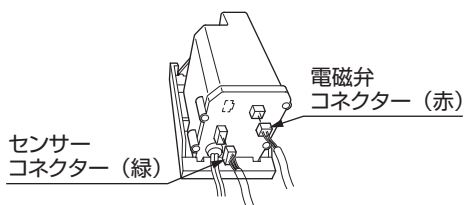
必ず守る

スパウト連結ホースを切断する際は、カッターなどを用い、切断面が垂直になるようにしてください。
(斜めに切断すると水漏れのおそれがあります。)
給水ホース接続後、軽く引っ張り抜けにくいこと。



4 コネクタの接続

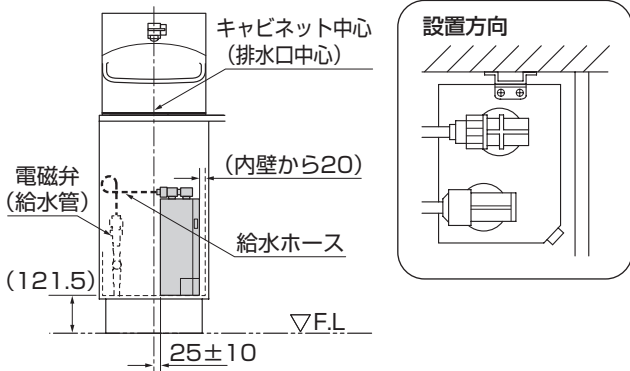
① センサーコネクタ（緑）と電磁弁コネクタ（赤）をカチッというまで差し込む



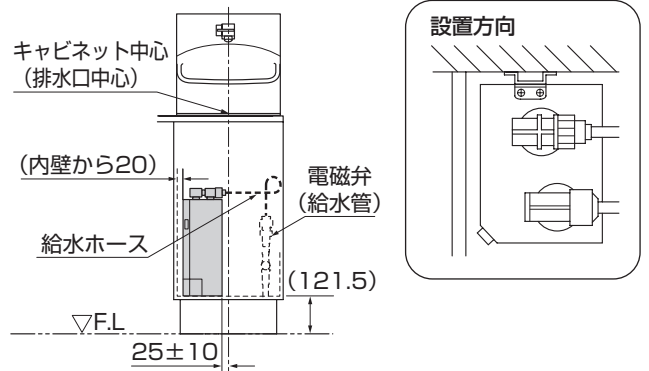
9 電気温水器本体の取り付け（電気温水器付の場合）

参照 ※詳しくは、電気温水器の施工説明書を参照ください。
 ※取り付け面がタイル・コンクリート壁の場合は、コンクリート用プラグ（現場手配）を使用してください。

左勝手



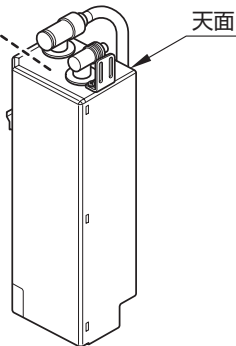
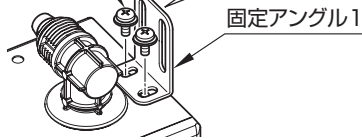
右勝手



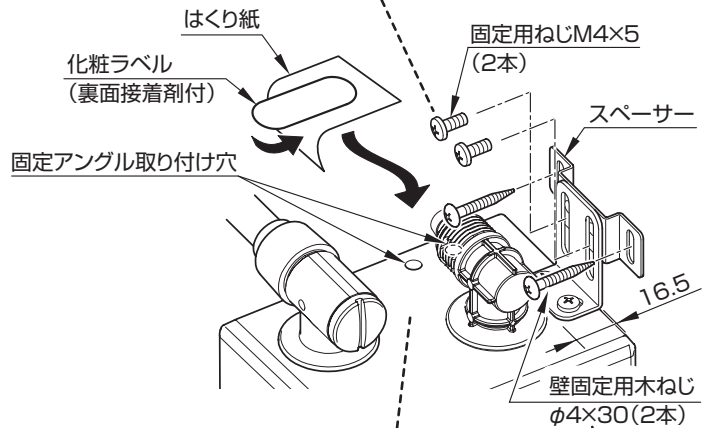
① 電気温水器に固定アンクル1を同梱のねじで取り付ける

固定アンクル用
座付なべ小ねじ
M4×10(2本)

短辺側を
本体に取り付ける



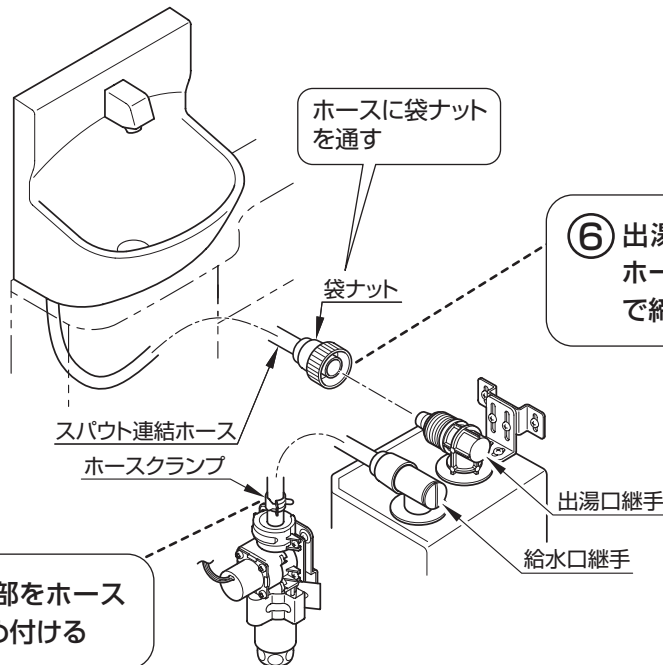
② スペースを固定アンクルに同梱のねじで取り付ける



④ 化粧ラベルで電気温水器本体上部の固定アンクルを取り付けない方(長辺側)の穴に貼り付けてふさぐ

③ 本体を壁に同梱のねじで取り付ける

⑤ ホースと機能部をホースクランプで締め付ける

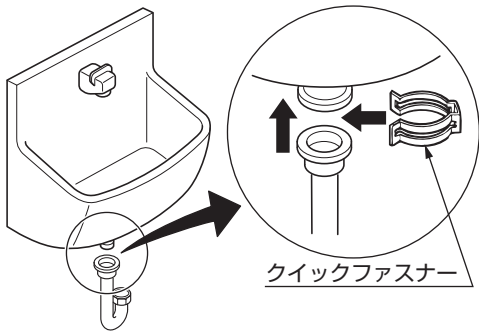


⑥ 出湯口継手にスパウト連結ホースを差し込み、袋ナットで締め付ける

10 排水管の接続

床排水 / 壁排水共通

- ① 手洗器排水口にトラップを差し込みクイックファスナーで固定してください。

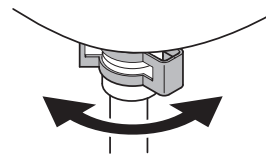


注意

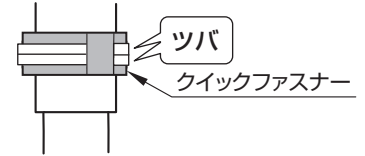
クイックファスナーが正しく固定されていることを確認する



必ず実行



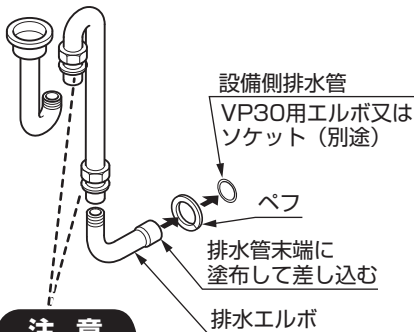
クイックファスナーの全周にツバがかかっていることを確認する



水漏れして家財などがぬれる財産損害発生の原因となります。

壁排水

- ② 排水管の2カ所の袋ナットを緩めて位置決めを行う。
- ③ 設備側排水管と排水管末端に接着剤を塗布して差し込む。



注意

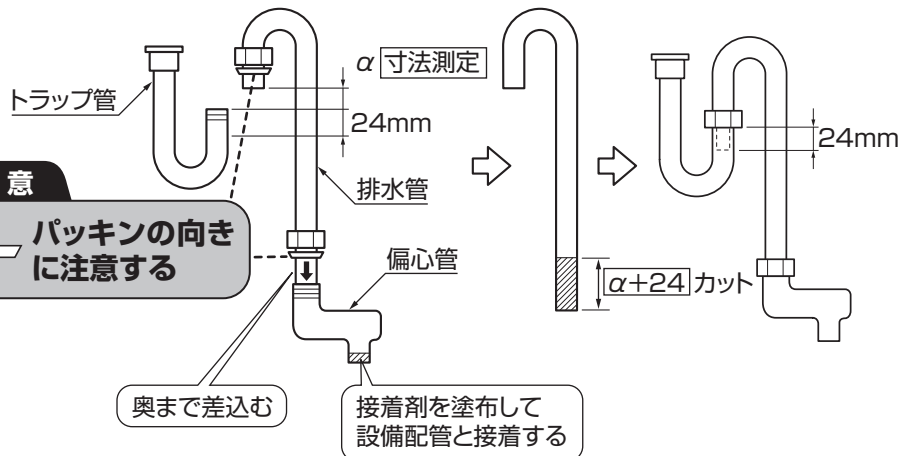
パッキンの向きに注意する

床排水

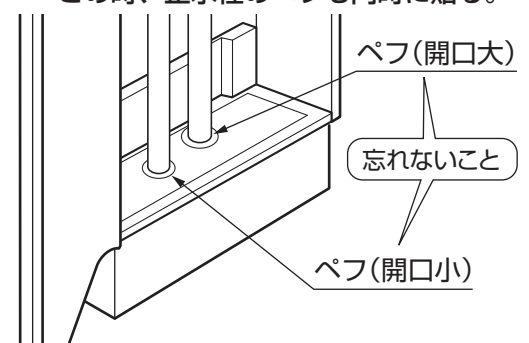
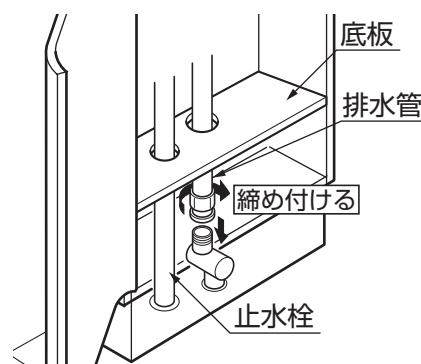
- ② 排水管と偏心管の袋ナットを緩める。
- ③ 排水管を偏心管へ差し込む。
長さが合わない場合は、図のようにカット寸法を確認し排水管をカットする。

注意

パッキンの向きに注意する



- ④ 底板の開口に通してから偏心管及びトラップと接続する。
- ⑤ 締め付け後、底板と排水管のすき間にペフを貼る。
この時、止水栓のペフも同時に貼る。



4 器具類の取り付け

- 1 ハンドグリップ、天然木手すり、棚付二連紙巻器、石けん受け(壁付)の取り付け

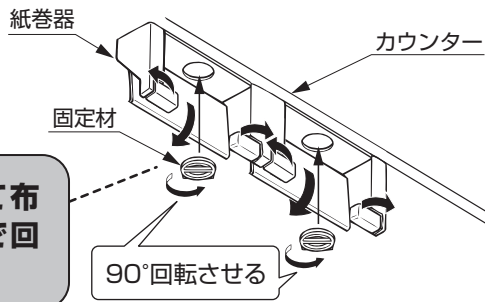
参照 ※詳しくは、専用の施工説明書を参照ください。

2 紙巻器の取り付け（カウンタータイプの場合のみ）

紙巻器を設置部に押し当て、図のように付属の固定ピースで90°回転させて取り付けください。固定後、紙切板を元に戻してください。

ポイント

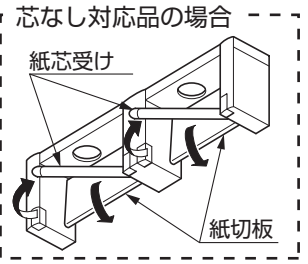
固い場合は、当て布をしてペンチ等で回転させる



注意

固定ピースは確実に90°回転させて固定する
落下の原因となります。

図のように紙芯受けを外側に開き紙切板を奥方向に倒してください。

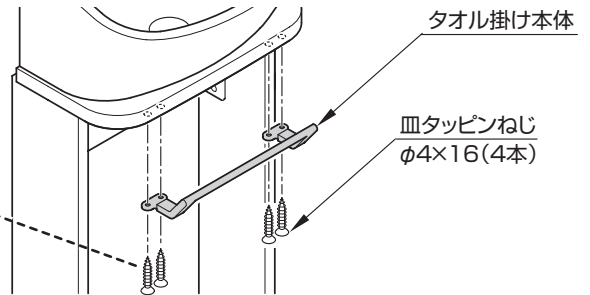


3 タオル掛けの取り付け（タオル掛けありの場合のみ）

カウンター裏面の下穴に同梱のねじで固定する

ポイント

ドライバーにて手締めすること



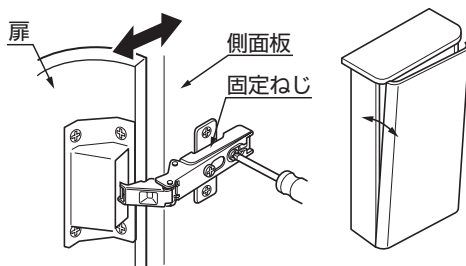
5 仕上げ・調整

1 扉の調整

キャビネット据付け後、扉のすき間が不均一だった場合以下の手順にしたがって調整し直してください。

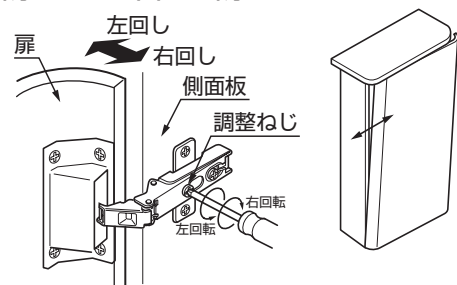
前後調整

丁番の固定ねじをゆるめて調整した後、締め直す。



左右調整

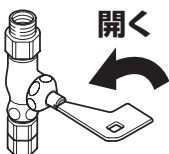
丁番の調整ねじを回して調整する。



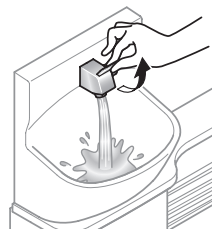
2 吐水確認

ハンドル式水栓

① 止水栓を開ける。

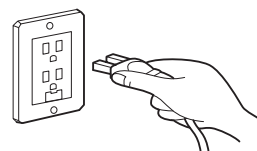


② ハンドルを回して吐水を確認。



自動水栓

① コンセントにプラグを差し込む。



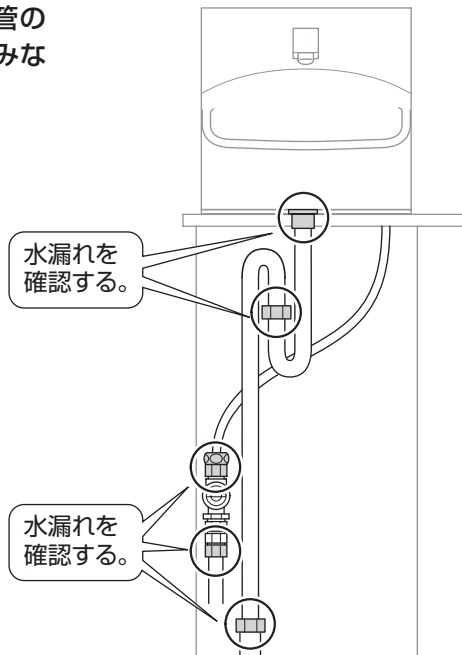
② 止水栓を開けて手洗器に手を差し出し水が出ることを確認する。



参照 電気温水器の梱包箱に同梱されている電気温水器の施工説明書の手順に従って吐水確認(試運転)を行なってください。

3 給・排水の水漏れ確認

2~3度洗浄させて、給水管や排水管の接合部から水漏れや袋ナットのゆるみなどが無いことを確認する。



※図は床給水・床排水の場合

4 フィルターの清掃 (自動水栓の場合のみ)

1 止水栓フィルターを掃除する (自動水栓の場合のみ)

① 止水栓を閉める

止水栓

開閉工具※
またはマイナス
ドライバー

※付属の開閉工具を
ご使用ください。

② フィルターふたを開け、フィルターを取り出す

フィルターふた

フィルター

③ フィルターの清掃を行う

ポイント

フィルターの清掃は必ず実施する

④ 開閉工具を止水栓にかけておく

- ・水漏れ確認後、開閉工具はお客様が緊急時に使用できるように止水栓につり下げておく
- ・つり下げたことを必ずお客様に伝えてください。

工事店様へ

- 取扱説明書の最終ページの保証書に、必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡しください。お渡しできない場合は、目立つ場所に置いてください。
- 止水栓に同梱されている開閉工具を止水栓にかけておいてください。
- 新築などでお客様に引き渡すまでに時間があるときは、電源プラグを抜いておいてください。